

Ⅲ 委員会活動

1 学内委員会

1) 委員会および委員一覧

委員会	委員 (◎:委員長、○副委員長)
教務委員会	◎望月 好子・瀧澤 直子・丹澤 洋子・林 真理子 (准教授)、飯室 淳子・橘田 節子・新村 直子 (講師)、北室 和茂 (事務職員)
学生委員会	◎中田 芳子・小川 景子 (准教授)、飯室 淳子 (講師)、後藤 雪絵・千葉 美果 (助教)、西山 京子 (事務室係長)
現代文明論委員会	◎新村 直子 (講師)、今瀬 繁子 (教授)、小川 景子 (准教授)、阿部 ケエ子 (講師)、岩屋 裕美・後藤 雪絵・渡邊 真弓 (助教)
国家試験対策委員会	◎中田 芳子・丹澤 洋子 (准教授)、飯室 淳子・橘田 節子 (講師)、2年生代表:吉野 由美子 (准教授)
国際交流委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、秋元 とし子・中田 芳子・望月 好子 (准教授)、寺村 絵美 (事務室員)
人権委員会	人権委員:非公開 相談委員:◎横島 啓子 (准教授)、飯室 淳子 (講師)、西山 京子 (事務室係長)
FD委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、丹澤 洋子 (准教授)、新村 直子 (講師)
倫理委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、飛田 美穂 (外部委員)、中谷 啓子 (総合看護研究施設所長・教授)、瀧澤 直子 (図書館長・准教授)、横島 啓子 (人権委員会相談委員リーダー・准教授)
年報編集委員会	◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、中谷 啓子 (教授)、望月 好子 (准教授)、西山 京子 (事務室係長)

2) 各委員会活動

(1) 教務委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、2003年度改定された教務委員会規程に則って活動する。委員会決定事項は、教務委員長から学科主任へ報告し、必要時企画調整会議に図り、教授会で審議・報告される。

B 活動概要

委員会活動は、昨年と同様に、前年度の引継ぎ事項を確認し、教務委員会年間活動計画に基づき活動した。引き続き「看護技術教育検討小委員会」、「安全教育検討小委員会」の2つの小委員会を設け、本学における看護技術教育および安全教育の充実に取り組んだ。

今年度は、前期1回、看護学教員(以下、「教員」と略す)全員での報告検討会を実施した。後期においても報告検討会を実施する予定であったが、直前におきた地震災害等の影響を受け中止とし、紙面での報告にとどめた。全教員で、ヒヤリ・ハット事例を共有し、対策等を検討するこ

とを通して、実習における安全に対する認識をさらに高め、学生指導に生かすことができたと考ええる。

今年度の活動の概要を以下に示す。

- ① 看護技術教育検討小委員会の活動内容と次年度への課題
 - a. 2010年度「看護技術体験記録」の集計・分析結果の報告

前期終了後および全実習終了後に記録を回収し、集計分析を行い、結果については、「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告とともに、前期に1回全体報告会をもち、年度のまとめについては紙面報告した。
 - b. 看護技術到達度記録の活用について

2009年度生から導入された「看護技術到達度記録」の活用方法について検討した。学生の自己評価の手だてとなるように、IV知識がわかるの項目について、評価の視点を設定することになった。各項目に関連する科目の担当者からの意見をふまえて、各学年の終了時に評価できる項目について、評価の視点を定めた。また、学生自身が確実に自己評価できるように、時間を設定し、適切に記録されているか確認した。
- ② 安全教育検討小委員会活動内容と評価

「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析を行い、学生の臨地実習における問題と安全対策について検討した。前述したように、前期1回の全体報告検討会をもち、教員間における意見交換を行った。年度のまとめおよび分析については、紙面上にて報告した。
- ③ 身体侵襲を伴う看護技術演習「同意確認書」について

今年度も同意確認を文書で行い、本人・保護者へは、新入生オリエンテーション時、学科主任から「同意確認書」に関する説明を行った。同意確認書は、教務委員長が提出を確認し、所定の場所に保管した。
- ④ 看護学実習オリエンテーションおよび実習病院（東海大学医学部附属病院、東海大学医学部付属大磯病院）との打ち合わせ会の企画・実施
 - a. 看護学実習オリエンテーションについての企画運営
 - b. 実習病院との打ち合わせ会の開催
- ⑤ 次年度以降の実習計画の立案

附属病院以外の実習施設との打ち合わせは、各領域担当者が行った。
- ⑥ 講義・演習・実習に関する意見の収集と対策について

前期・後期授業終了後、各教員から講義・実習に関する意見を収集し委員会において検討した。学習環境の整備や学生指導の徹底などについて検討され、問題状況の改善につなげることができた。
- ⑦ 実習評価について

領域責任者を通じて2010年度実施された全看護学実習評価を一覧表にまとめた。今年度の評価反省を生かして、学生にとってより良い実習ができるよう、関係諸施設、臨床実習指導者などとの連携を強め、努力していく。
- ⑧ 実習要綱総説の見直しと修正について

「感染症発症時の対応について」、「手術室オリエンテーションについて」、「看護過程展開の実習記録について」、それぞれ見直しを行った。
- ⑨ 次年度への課題

次年度も、授業（講義・演習・実習）が円滑に運営されるよう今年度の活動を継続するとともに、新カリキュラムが完成する年度となるので、学内の関連部署および委員会が密接に連絡を取りながら協働し、委員会活動を推進していく。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月14日(水)	① 教務委員会規定の確認 ② 活動目標・計画、役割分担の確認 実習打ち合わせ会役割の確認
2	5月26日(水)	① 小委員会の活動目標・年間行動計画 ② 10KF 看護学実習に関するガイダンスについて(役割確認) ③ 「看護技術到達度記録 自己評価の視点」の検討
3	6月16日(水)	① 小委員会からの報告および検討 「看護技術到達度記録 自己評価の視点」の検討 ② 2011年度実習計画の検討 前期、講義・実習に対する意見のとりまとめについて
4	7月21日(水)	① 小委員会からの報告および検討 「看護技術到達度記録 自己評価の視点」の検討 ② 授業評価アンケートの回収方法についての検討 ③ 校章・バッジについての検討
5	9月1日(水)	① 小委員会からの報告および検討 (ア)前期の看護技術体験記録集計結果報告と今後の対策 (イ)前期におけるヒヤリ・ハット報告集計と分析今後の対策 ② 前期における講義・演習・実習に対する意見について検討 ③ 「看護技術到達度記録 自己評価の視点」の検討 9月11日(土)(臨時) 前期ヒヤリ・ハット集計の分析・資料の確認 全体報告会準備
6	10月20日(水)	① 小委員会からの報告および検討 「看護技術到達度記録 自己評価の視点」の検討 ② 2011年度実習要綱総説修正・加筆点について 感染症発症時の対応の検討 看護過程展開記録用紙記載例の検討
7	11月17日(水)	① 小委員会からの報告および検討 「看護技術到達度記録 自己評価の視点」の検討 ② 2011年度実習要綱総説について修正・加筆点について検討 ③ 2010年度実習評価について
8	12月9日(水)	① 小委員会からの報告および検討 「看護技術到達度記録 自己評価の視点」の検討 ② 2011年度実習要綱総説について修正・加筆点について検討 ③ 2011年度看護学実習オリエンテーションについて
9	1月12日(水)	① 小委員会からの報告 *看護技術体験記録の集計、ヒヤリ・ハット集計 ② 2011年度実習についての検討 *2011年度09KF実習グループ編成について *2011年度09KF・10KF実習ガイダンスについて

		*2011年度09KF手術室オリエンテーションについて
10	2月16日(水)	① 小委員会からの報告および検討 *「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告と今後の対策 *看護技術体験記録の集計結果報告 ② 2010年度実習評価について ③ 2010年度後期の講義・演習・実習に対する意見と検討
11	3月9日(水)	① 小委員会から報告・活動評価 ② 2011年度09KF・10KF実習オリエンテーションについて ③ 2011年度実習打ち合わせ会について(付属2病院) *受け持ち患者さんへの説明内容 検討 ④ 2011年度11KFガイダンスについて ⑤ 教務委員会年間活動評価・次年度への課題

(2) 学生委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学生会活動を側面から支援し、学生一人ひとりが社会人として学生生活を有意義に送るために組織されている、本委員会はあくまでも学生と共に考え、学生会・学友会と一人一人の学生の主体性を尊重するという方針で臨んだ。

B 活動概要

学生生活について、大きな問題は生じなかった。学生会活動(学生総会、選挙管理委員会、飛鷗祭、学生交流会、学友会、東海大学短期大学(部)スポーツ大会など)を中心に学生の活動を見守り、支援した。ユニフォームのバッチについて学生会がアンケート調査を行い「必要でない」という結果となった。謝恩会は、3月の東北関東大震災のため中止とし、その費用の一部を義援金として寄附した。

飛鷗祭は、昨年度と一部企画を変更して、スポーツ大会を実施し、飛鷗祭委員長を中心に盛況のうちに実施することができた。

C 委員会開催状況

回	開催日	報告・議題
1	4月20日(火)	【報告】謝恩会、学生交流会、飛鷗祭の進行状況 【議題】① 2010年度学生委員会活動について ② 役割分担について ③ 年間計画について
2	6月17日(木)	【報告】学生総会、学生懇談会 【議題】① 議事録作成について ② 飛鷗祭の進行状況 ③ 短期大学(部)スポーツ大会
3	9月9日(木)	【議題】① 短期大学(部)スポーツ大会の実施状況と来年度の課題 ② 飛鷗祭の進行状況と今後の指導 ③ 2010年度謝恩会の日程について

4	10月13日(水)	【議題】① 飛鷗祭の進行状況と今後の指導 ・ 飛鷗祭の準備及び当日の対応 ・ 学生委員会教員の対応 ②ユニフォームのバッヂについて
5	1月11日(水)	【報告】飛鷗祭会計報告、ユニフォームのバッヂ、選挙管理委員会、謝恩会の進行状況、国家試験の激励 【議題】① 飛鷗祭の振り返り ② 役割分担について ③ 年間計画について
6	1月26日(水) (臨時)	【議題】① ユニフォームのバッヂについて
7	3月16日(水) (臨時)	【議題】①謝恩会の開催について

(3) 現代文明論運営委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、現代文明論委員会の規程にもとづき、現代文明論の講義編成、運営を行う。

B 活動概要

今年度の授業運営の主な変更点は3つある。まずは受講用紙の構成である。受講用紙は、前年度までは学生が自由に区切り使用していたが、今年度より「講義概要」と「自分の意見」の2段・半々に分けたものへ変更した。その結果、「講義概要」と「自分の意見」それぞれが、明確に述べられるようになった。

2つ目は、講師の学生へのコメント方法である。昨年度までは、講師は受講用紙のコメント欄に、学生各自へ記載していた。今年度は、受講用紙のコメントスペースを縮小し、学生全体に共通する内容は、A4用紙1枚程度に記載する方式へ変更した。その結果、講師から学生へよりタイムリーにコメントでき、さらにより充実した内容を提示できるようになった。

3つ目は課題レポートの文字数である。昨年までの「1000-1200字以内」から「1000-1600字以内」に増やした。その結果、序論・本論・結論ともに余裕を持った記載や改行などもできるようになった。

以上が主な変更点である。

課題レポートの記載状況では、「序論・本論・結論を意識した記載」・「引用・参考文献・インターネットからの情報の使い方や提示方法」が弱かった。前期にもこの傾向が強かったため、後期のガイダンス時に説明を行ったが、大きな変化はなかった。そのため、前期科目「情報検索」「ことばと表現」の担当教員と連携をとることと、特に後期のガイダンスではレポートのテーマの絞り方・序論および文献の記載方法について、その重要性を強調し、学生へ伝える必要がある。

また、「まとめ」のグループワークに関しては、主に2つの学習効果が得られた。1つは学生同士お互いの意見を聞いて、考え、感じ、意見を持つなど、意見交換による視野の広がりである。2つ目は、レポートの表現、文章構成、表やグラフの使い方などレポートの表現・作成形式に関する学びであった。その他、「ひとつの問題に対し、グループの仲間で考えた。日常の中でも仲間同士で真剣に考える機会を持つことが大事」「発表にあたり、どうすれば自分の意見が友人に伝わるか、その工夫について考えた」など、一人ではできない学びをグループワークにより達成していた。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月8日(木)	① 現代文明論運営委員会の役割と規定の確認 ② 運営方針、運営方法の確認 ③ 年間スケジュールの確認
2	6月16日(水)	① 授業の現状報告 ② 現代文明論連絡調整会の報告 ③ 第14回まとめレポート、採点基準の確認 ④ 現代文明論連絡調整会の報告
3	8月4日(木)	① 授業の現状報告 ② 第14回まとめレポート、採点後の話し合い ③ 2011年度授業構成について
4	9月29日(水)	① 現代文明論Ⅰの成績評価について ② 現代文明論Ⅰの授業評価と現代文明論Ⅱの授業運営 ③ 受講用紙返却準備
5	12月20日(月)	① 授業の現状報告 ② 現代文明論連絡調整会の報告 ③ 現代文明論Ⅰ・Ⅱのシラバスについて ④ 第14回まとめレポート、採点基準の確認
6	2月2日(水)	① 現代文明論Ⅱの成績評価について ② 第14回「まとめ」について ③ 講師への依頼手続きに関する書類の見直し
7	3月16日(水)	① 現代文明論Ⅱの授業評価について ② 2010年度活動のまとめ(委員会報告)

(4) 国家試験対策委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、3年指導教員と2年指導教員代表及び学生の国家試験対策委員で構成し、事務室の国家試験担当と連携協働しながら活動する。看護師国家試験を受験する学生全員が合格することを目指して支援する。

B 活動概要

「第100回看護師国家試験全員合格」をテーマとし、学生が主体的に国家試験の対策が推進でき、それを教員が支援していくことを活動方針とした。2010年3月から委員会を行い、春休みに学習支援が必要な学生にはグループ指導を行った。国家試験対策ガイダンスは国家試験対策委員長が行ない、過去問題についてはグループで12月までに計画的に学習するようにした。教員の国家試験対策委員会と教員学生合同の国家試験対策委員会を有機的に実施し、相互に連携しながら活動した。補講は、学生の国家試験対策委員が直接教員に依頼し、内容に関する要望等に関して連絡調整をし、全学生が補講を活かしながら計画的に学習できるよう工夫した。冬休みと1月以降については、個人学習計画表を作成し、それをもとに1月には指導教員が全員に面接をして、学習の動機付け、励まし、心理的な支援を行なった。また、学習支援が必要な学生については、個別指導やグループ指導を行った。既卒者への対応は、事務室の国家試験担当者を通して補習講

義日や模擬試験の日程等の情報を提供した。

2年生の対策としては、後期より学生国家試験対策委員が中心となり小テストを隔週で実施した。また、2011年1月には業者模擬試験を行い、その結果に基づいて各自が春休みの学習計画を立案し、必要に応じて指導教員が個別面接を行った。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	3月6日(火)	① 春休みの勉強会(学習支援が必要な学生が対象)の参加状況 ② 2010年度のテーマと活動方針について ③ 年間計画について ・業者模擬試験、過去問題模擬試験の実施計画 ・補講の実施予定 ・先輩からのアドバイスの日程、候補者について ・学習グループの編成と指導体制 ④ 教員間の役割分担 ⑤ 教材の選定と購入について ⑥ 2年生の対策について
2	4月20日(火)	① 教材について ② グループ学習の指導について ③ 年間補講時間数と夏の補講計画について
3	6月9日(水)	① 業者模擬試験の対応(6月、8月、9月)及び学生への返却時期と方法について ② 教員の教材購入について ③ 8月の先輩からのアドバイスの人選 ④ グループ学習計画と今後の指導方法 ⑤ 夏の補講予定
4	7月21日(水)	① 先輩からのアドバイスの日程と人の決定 ② 業者模擬試験の対応 ③ 学習支援が必要な学生の夏休みの指導について ④ 12月以降のグループ学習計画と今後の指導方法
5	9月2日(水)	① 冬の補講予定 ② 学習支援が必要な学生への対応 ③ 必修問題への対策 ④ グループ学習の状況と今後の対策
6	11月24日(水)	① 個人学習計画の指導について(学習計画表について) ② 1月のグループ指導について ③ 業者模擬試験の対応
7	11月27日(土) (臨時)	① 学習支援が必要な学生への対策と指導方法について ② 学習計画表と模擬試験結果表について ③ 冬の補講日程について
8	1月14日(水)	① 学習強化チーム(学習支援が必要な学生が対象)の見通し ② 伊勢原校舎での模擬試験の対応 ③ 受験票配付日の進行と内容

		④ 国家試験対策に関する学生アンケートについて ⑤ 必修対策の対応
9	1月26日(水)	① 学習強化チームについて ② 個別指導が必要な学生への対応について ③ 伊勢原校舎での模擬試験実施について
10	2月15日(火)	① 受験票配付日の進行について ② 受験票配付日の指導教員からの受験前日・当日の心構え等について ③ 試験当日の対応について ④ 試験後の対応について ⑤ 合格発表日の対応 ⑥ 国家試験対策の学生アンケートの集計と整理の分担について
11	3月31日(木)	① 2011年度国家試験対策の評価 ② 国家試験対策の学生アンケート結果について

(5) 国際交流委員会

A 位置づけ・役割

本学主催のデンマーク看護研修に対する支援を中心に、東海大学主催の航海研修およびハワイ語学研修、その他国際交流に関する支援を行う。

B 活動概要

東海大学国際連携課の連携し、デンマーク看護学生研修受け入れに際し、プログラム運営の調整役を果たした。

例年行われている本学学生のデンマーク看護研修は本年度より段階別評価に変わるため、評価基準を作成した。

ハワイ語学研修については、「英語：スピーキング」に振り替えて単位認定できることとなったが、2010年度の参加者は0名であった。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	5月6日(木)	① 2010年度デンマーク看護学生研修評価 ② 2010年度デンマーク看護研修進行状況 ③ デンマーク看護研修成績評価について ④ ハワイ語学研修の科目振替について ⑤ 医療技術短期大学給付奨学金の給付方法について
2	7月15日(木)	① 2010年度デンマーク看護研修進行状況 ② デンマーク看護研修単位認定の評価について ③ ハワイ語学研修参加者について ④ 医療技術短期大学給付奨学金の給付方法について
3	11月17日(水)	① 2010年度デンマーク看護研修報告・評価 ② 2011年度デンマーク看護研修にむけて

		③ ハワイ語学研修の科目振替について
4	3月24日(木)	① 2010年度デンマーク看護研修成績評価・報告書について ② 2011年度デンマーク看護研修進行状況

(6) 人権委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関である。学生の教学上（教育、研究及び課題活動を含む学生生活）、業務上等の関係を利用してなされるハラスメント防止と被害者の救済を行う。

B 活動概要

ハラスメントに関する苦情相談、救済と対応のため相談窓口を設置する。相談委員名については、学生ガイダンスおよびキャンパスナビに記す。

2010年度は職員から宗教団体勧誘に関する相談があったため、在学生への影響を考え、新学期のガイダンス時に、学生委員会から勧誘等についての注意喚起を依頼した。

前期・後期ともに学生から教員の指導のあり方について相談があったため、学生の個人名を伏せ学科主任および科目責任者に状況を報告し対応を行った。

全相談は相談委員の対応のみで解決でき、調査委員会等の立ち上げの必要はなかった。

C 委員会開催状況

定例会議は実施せず、前期および後期に各1回相談状況の確認と対策について報告をおこなった。

(7) FD委員会

A 位置づけ・役割

大学設置基準・短期大学設置基準の改正により、2008年4月から大学・短期大学におけるFDが義務化された事をうけ、同年、本学における教員の資質開発を目的としFD委員会が設置された。委員会は、以下の活動を行う。

- a 教育活動支援
- b 研究活動支援
- c その他、教員の関わる活動に関する支援

B 活動概要

3回の教員研修会を企画し実施するとともに、5カ年計画を見直した。研修会は以下のとおり。

- a 第1回 教員の研究力向上を図り、研究活動の活性化と質の高い研究の増加を期して、講演会を開催した。

テーマ：「科研費研究事例の紹介と獲得に向けた研究計画書作成のポイント」

- 内容：・外部資金が獲得できる研究テーマの取り上げ方
・外部資金が獲得できる研究計画書作成のポイント
・申請の準備としてのキャリアの積み重ね方
・科研費申請や研究において工夫や苦労した具体例など

講師：東海大学健康科学部看護学科 溝口 満子 教授

日時：2010年7月24日(土) 10:00～11:40

出席：教員 13 名

b 第2回 2009年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー受賞者による模範授業

内容：「在宅看護論Ⅱ」の概要と「訪問時のマナー・コミュニケーション」の授業について

講師：在宅看護 中田 芳子 准教授

日時：2010年8月24日（火）10：00～12：00

出席：教員 16 名

c 第3回 「自己の授業科目を教育目標に照らして検討することを通して、教育目標を積極的に活かす意識が持てる」ことを目的としてワークショップを開催。

テーマ：「教育理念を授業科目にどうつなげるか」

内容：午前 講義「東海大学における教育理念を授業科目に活かす取り組みについて」

午後 グループディスカッション「カリキュラムマップを活用した教育目標と授業科目目標・内容の照合・検討」

講評

日時：2010年3月4日（金）10：00～16：45

出席：教員 20 名

まとめと課題 研修会は年3回で妥当であった。それぞれに学びは大きかったが、看護過程展開など、より具体的な共通テーマについて知りたい要望があり、FDとは別に機会を設ける必要がある。

C 委員会開催状況

回	開催日	議題
1	5月13日（木）	① 活動方針 ② 活動計画
2	6月18日（金）	① 第1回FD研修会（研究活動支援）準備
3	8月5日（木）	① 第1回FD研修会（研究活動支援）の評価 ② 第2回FD研修会（教育活動支援）2009年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー「模範授業」準備
4	9月16日（木）	① 第2回FD研修会（2009年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー「模範授業」）の評価 ②第3回FD研修会（教育活動支援）ワークショップ企画
5	9月22日（木）	① FD5カ年計画の見直し
6	10月20日（水）	① 第3回FD研修会ワークショップ企画
7	12月22日（水）	① 第3回FD研修会ワークショップ企画、準備
8	2011年 1月12日（水）	① FD推進プロジェクトにおける委員会メンバーの研修 ② 第3回FD研修会ワークショップ企画・準備
9	2月15日（火）	①第3回FD研修会ワークショップ企画・準備
10	2月18日（金）	①第3回FD研修会ワークショップ企画・準備
11	3月14日（月）	① 第3回FD研修会ワークショップ評価 ② FD委員会年間活動評価 ③ 次年度研修会計画

(8) 倫理委員会

A 位置づけ・役割

人を対象とする研究活動においては、研究者はいかなる研究対象者に対しても、人として尊重され、その人権が擁護されることに責任をもち、さらに、他者および自己の知的財産権を保護することにも責任をもつ義務がある。本委員会は、これらの責任および義務を遂行するために、東海大学医療技術短期大学研究倫理指針の基本原則を示し、種々の研究活動における倫理的側面に対して、これを審査することを目的とした委員会である。

B 活動概要

本年度の倫理審査申請は学内7件、うち「付帯事項付き可4件（2件は再審査後）」、「不可3件（2件は再申請なし、1件は再審査でも不可）」であった。

そのほかの活動は、以下の通りである。

- ① 「倫理審査申請の手引き」の見直しを行い、申請の流れについて図に加え説明文を作成した。また、チェックリストの補足として「倫理申請について」の一文を作成した。
- ② 倫理審査委員会で承認をうけた方法と異なる実施がされていた研究があり、審議の結果「承認取り消し」とした。
- ③ 委員会メンバーのFDとして、「臨床研究における倫理規範とその審査」のテーマで、東海大学医学部附属病院治験・臨床研究管理部 臨床研究事務室長 三上 礼子氏を講師に招き、厚生労働省から平成20年に示された「臨床研究に関する倫理指針」を中心として、人を対象とする研究の倫理規範とその審査基準等について6月14日に1時間半の研修会を行った。
- ④ 申請者が希望した場合、審査内容の録音を認めることとしているが、今年度も活用者はなかった。
- ⑤ 倫理審査に適合した研究の増加を期し、次年度は審査会への参加者を書記を含め3名まで認めることとした。
- ⑥ 次年度の初回委員会開催予定は、4月6日と決定された（これを受け、申請者への申請書類提出期限の周知を本年度中に行う）。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	5月7日（金）	① 活動方針および課題と活動計画 ② 定例委員会開催予定 ③ 倫理委員会のFD研修会企画
2	6月2日（水）	① 倫理委員会FD研修会準備 ② 外部からの研究協力依頼の取り扱い ③ 「倫理審査申請の手引き」見直し
3	7月7日（水）	① 倫理審査 1件：付帯事項付き可 ② 「倫理審査申請の手引き」見直し
4	8月4日（水）	① 外部からの研究協力依頼の取り扱い ② 「倫理審査申請の手引き2010」確認 ③ 「倫理申請について」提案事項の検討
5	9月1日（水）	① 倫理審査 1件：不可 ② 「倫理申請について」提案事項の再検討

6	10月6日(水)	① 倫理審査 5件(含 再審査1件):付帯事項付き可2件、不可3件
7	11月10日(水)	① 倫理審査 1件(再審査):付帯事項付き可 ② 外部からの研究協力依頼(報告)1件 ③ 再審査申請の期限:初回審査の次の審査日まで
8	12月14日(水)	① 倫理審査承認研究の実施における問題点の訴えに関する取扱い:「認定取り消し」 ② 「付帯事項付き可」の修正計画書の書式と取扱い ③ 再審査申請における申請書の表記 ④ 外部からの研究協力依頼(報告)1件
9	1月12日(水)	① 倫理審査承認研究の「認定取り消し」に関する報告 ② 倫理審査 1件:不可
10	2月2日(水)	① 外部からの研究協力依頼(報告)2件 ② 倫理審査 1件(再審査):不可 ③ 3月の再審査日について
11	3月2日(水)	① 本年度評価 ② 倫理審査委員会への参加人数について ③ 次年度第1回定例委員会日程および開催回数

(9) 教育年報編集委員会

A 位置づけ・役割

第三者評価機関による外部評価が義務付けられたことを受け、教育年報は自己点検・評価の一環として位置づけられるとともに、広く社会に本学の教育研究活動の取り組みを公表することを通し批判を乞うことを目的として発刊する。本委員会は、その趣旨に基づき、以下の役割を担う。

- 1 教育年報の趣旨に基づき、その構成、記載方法に関する基準を作成し、適宜改訂する。
- 2 提出された原稿が基準に則り適切に記述されているかを査読する。

B 活動概要

2008、2009年度教育研究年報につき、記載内容・方法を再度検討・調整したのち、提出された原稿の査読を行いウェブ上に公開した。「作成の手引き」に基づき、2010年度教育研究年報の原稿執筆を依頼した。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	9月～10月	第1回紙面会議(原稿を回覧、査読)
2	9月3日	① 年報記載内容について ② 年報記載方法について ③ その他 執筆担当・掲載の基準
3	12月～1月	第2回紙面会議(原稿を回覧、査読)